

ISUZU

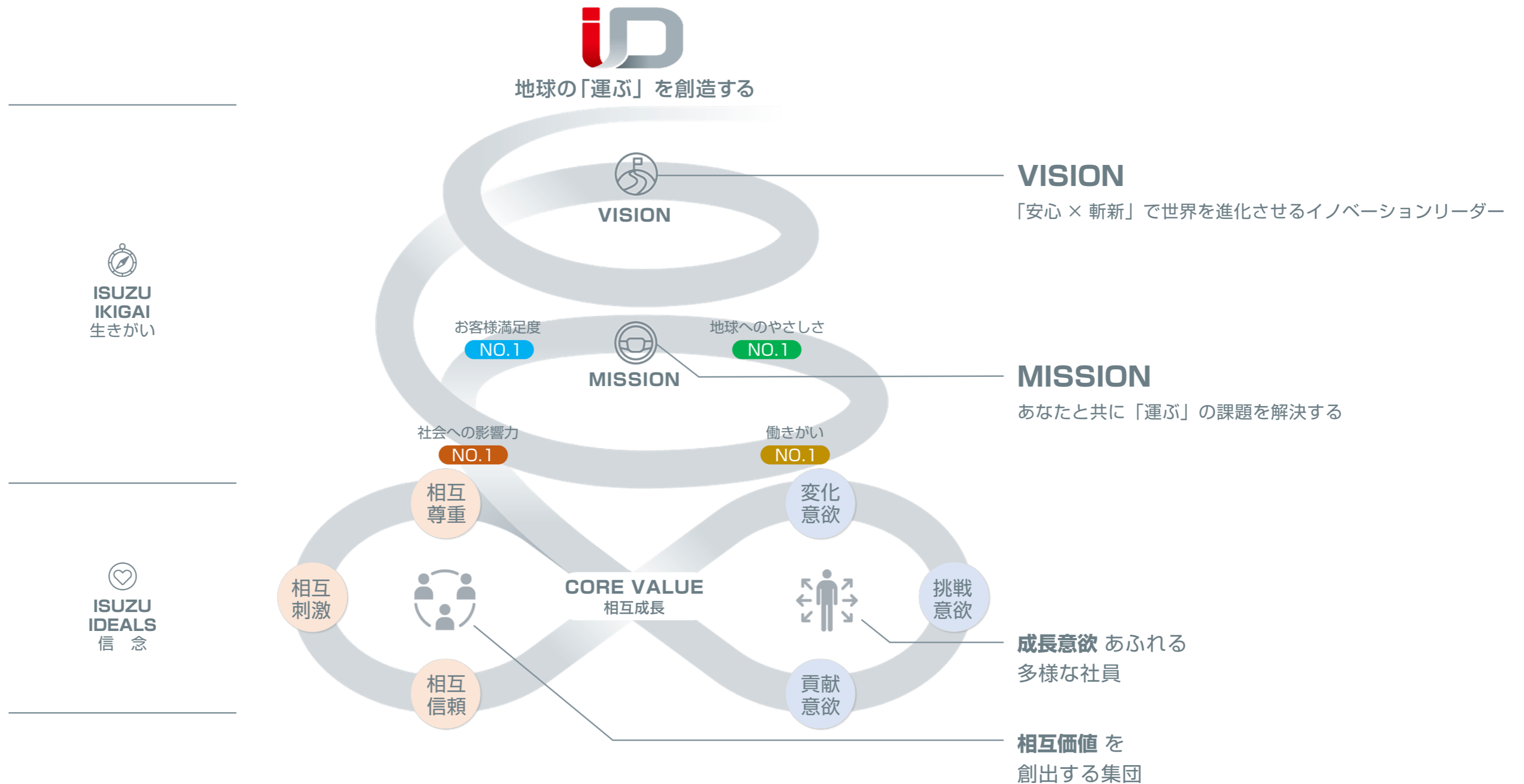
ESG視点経営の深化、 イノベーションの加速に向けて

2023年5月12日

いすゞ自動車株式会社

新経営理念体系「ISUZU ID」

ESG視点経営に従来の「いすゞらしさ」を加えて深化
「地球の『運ぶ』を創造する」という決意を最上位概念に置き、ISUZU IDとして体系化



ISUZU IDを起点とした いすゞのイノベーション創造プロセス

「地球の『運ぶ』を創造する」を通じて社会課題の解決に貢献
ISUZU ID を起点に強みを磨き、しなやかに変化と挑戦を続ける

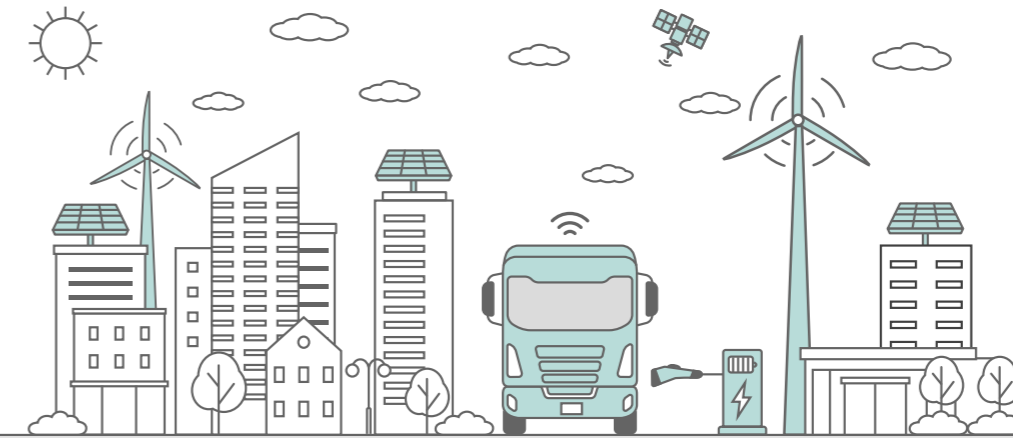
既存事業の拡大・収益向上

商品・サービスの充実によりお客様の稼働をサポート



イノベーションの基軸

商用車に求められる社会課題にフォーカス



ESG を視点とした経営への深化

大変革期でも生き残れる企業へと体質転換を推進

ISUZU ID

既存事業の拡大・収益向上：商品・サービスの充実

ISUZU ID の VISION に掲げる「安心 × 斬新」を商品開発に反映
成長基盤を最大限活用し、商品・サービスの充実 および 財務基盤を強化

小・中型トラックの フルモデルチェンジ

- ・ モジュラー開発「I-MACS」を活用した量産製品第一弾
- ・ いすゞ初の量産 BEV を市場投入
- ・ コネクテッド技術向上によるシステム連携拡充



UDトラックスとの 初の共同開発商品

- ・ UDトラックスとの初の共同開発商品として
新型トラクタヘッドを両チャンネルへ投入
- ・ 両社の技術を持ち寄り、運転操作性・安全性・積載効率を向上
- ・ 国内400拠点を超えるサービス網によるサポートの充実



イノベーションの基軸：カーボンニュートラルや物流DX※ への積極投資

2030年までに総額1兆円規模のイノベーション投資を実施
カーボンニュートラルや物流DXを加速、ISUZU IDの最上位概念「地球の『運ぶ』を創造する」を実現

カーボンニュートラル

- ・ 全カテゴリへの電動車導入、ラインアップの拡充本格化
- ・ お客様や社会の脱炭素化に貢献するサービスの拡充
- ・ 事業所のCO₂削減・資源循環の推進



物流DX

- ・ コネクテッドサービスの進化・拡充
- ・ 自動運転の実用化に向けた技術開発
- ・ 新時代の「運ぶ」を創造する新サービスの可能性を追求



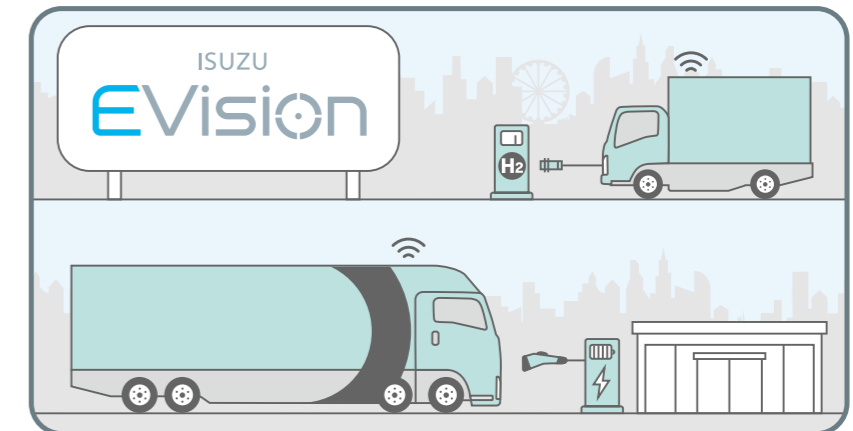
「イノベーション投資」として2030年までに **総額1兆円を投資**

イノベーションの基軸：イノベーション投資 ～カーボンニュートラル対応～

中期経営計画 2024 で公表したカーボンニュートラル戦略に基づき、脱炭素化を加速

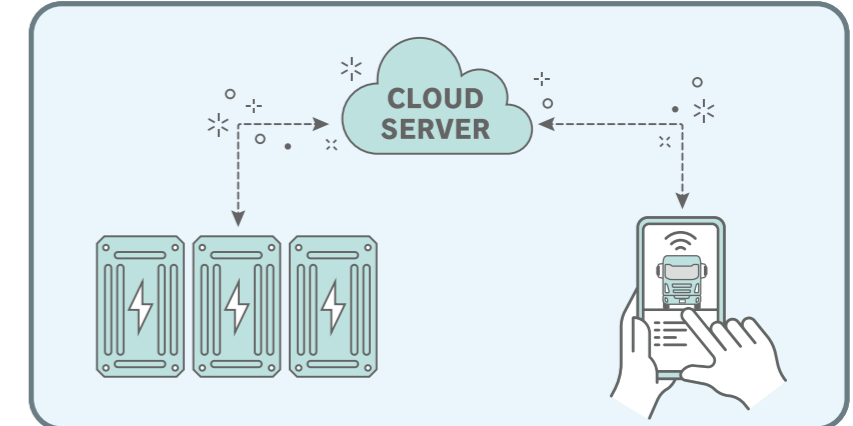
電動車ラインアップの 拡充

- ・ 2030 年までに全カテゴリ
(大型・中型・小型・LCV・バス)へ電動車を導入
- ・ 車載電池・車載モーター等、電動化技術の開発を加速



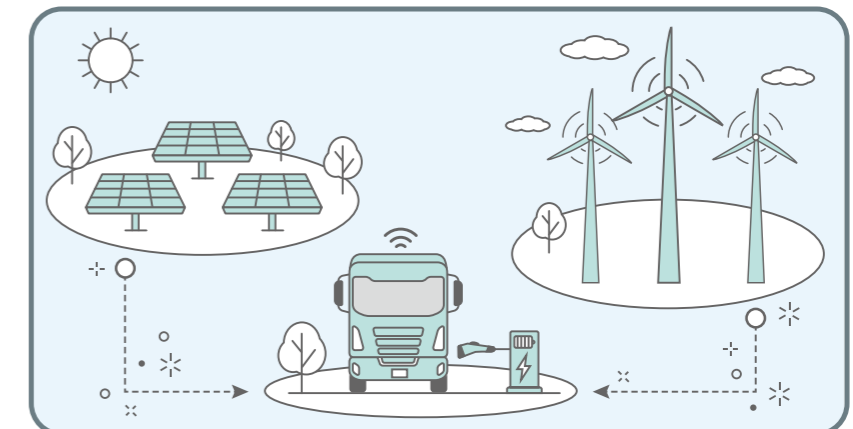
お客様や社会の脱炭素化に 貢献するサービスの拡充

- ・ 商用BEV 導入時のトータルソリューションプログラム「EVision」の
サービス拡充
- ・ 車載電池を活用した、広範囲でのエネルギーマネジメントサービスの実現
- ・ リマニュットを活用した、廃棄車両の再資源化サービスを拡充



事業所の CO₂ 削減・ 資源循環の推進

- ・ 昨年発表した 2030 環境ロードマップに基づき、活動を推進
- ・ 国内外の事業所からの CO₂ 排出量*を 2030 年までに 50% 削減
(2013 年比)



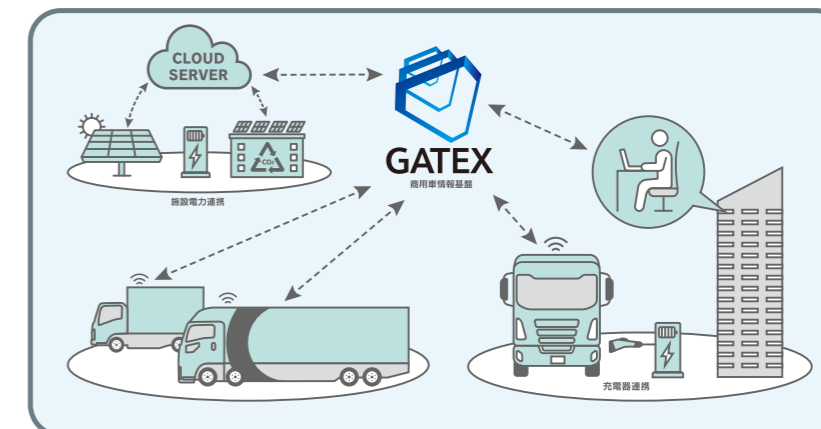
*Scope 1 + Scope2

イノベーションの基軸：イノベーション投資 ～物流DX～

お客様の物流課題解決への貢献を企図し、ソフトウェアやデジタルへ経営資源を積極投入
アライアンスパートナーやお客様との協創に積極的に取り組む

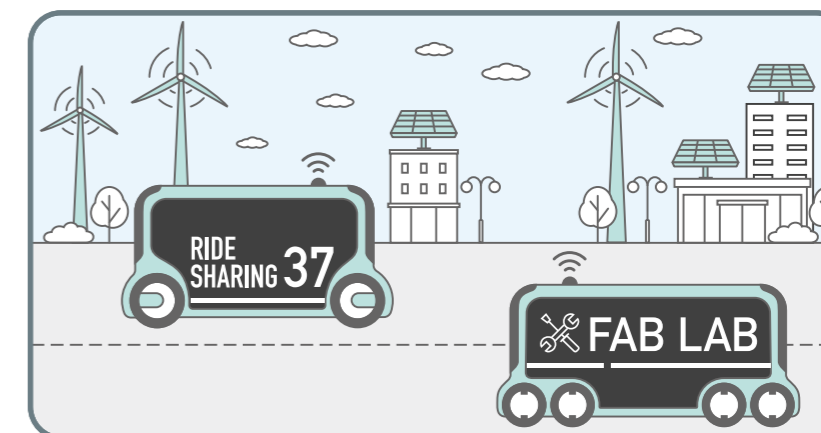
コネクテッドサービスの
進化・拡充

- ・ 商用車情報基盤「GATEX」をお客様に活用いただくことで、物流業界が抱える課題の解決に貢献



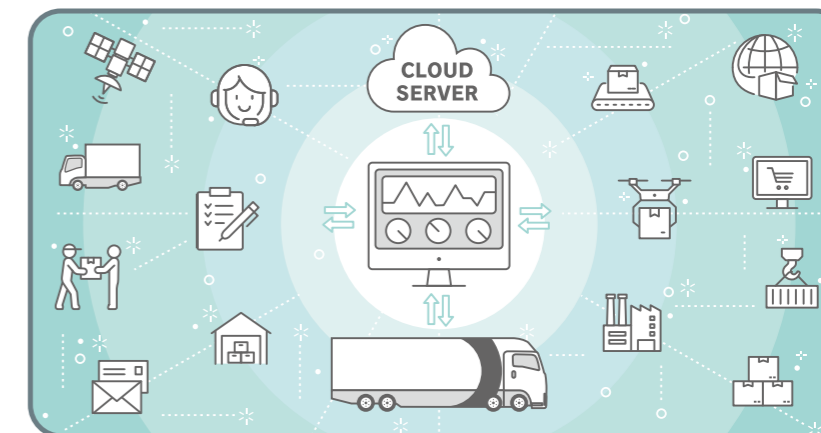
自動運転の実用化に向けた
技術開発

- ・ レベル4相当の自動運転の実用化に向け、技術開発と実証試験を継続



新時代の「運ぶ」を創造する
新サービスの可能性を追求

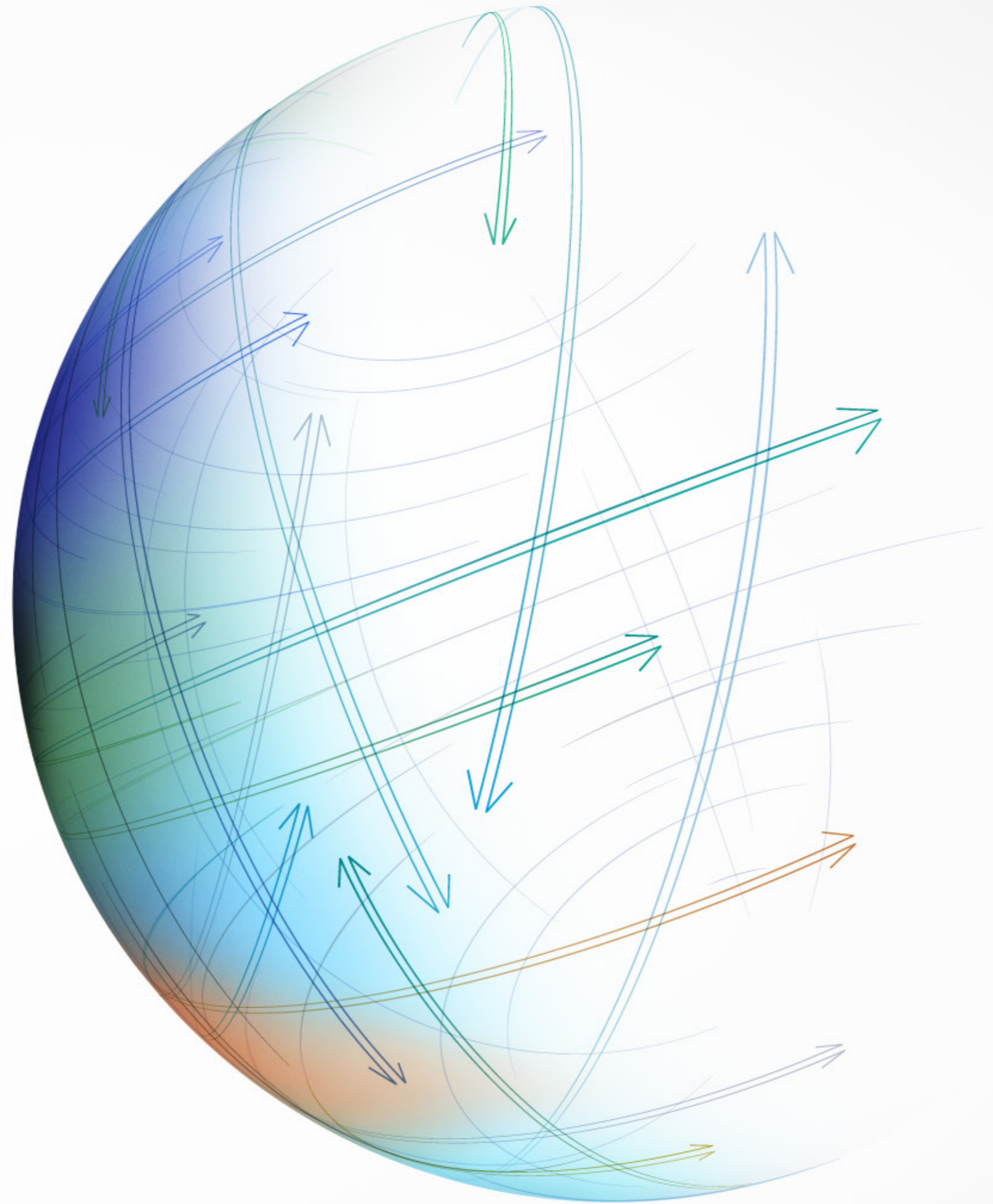
- ・ 輸配送効率化等のソリューションを提供する新規事業創出に挑戦
- ・ 業界の枠を超え、異業種やスタートアップとの連携を加速



地球の「運ぶ」を創造する

Moving the World - for You

ISUZU



地球の「運ぶ」を創造する

ISUZU

将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するものを除いては、現時点で入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、その性質上、情報の正確性を保証するものではありません。また、当社は、これらの将来の業績および計画その他将来の情報等に関する記述につき、将来の事象および最新の情報等に基づいて随時更新する義務を負いません。

従いまして、本資料におけるかかる仮定および判断に含まれる不確定要素や将来の経済環境の変化、自動車市場の変化、為替変動、会社の経営環境の変化などを含む種々の要因によって、本資料に記載された情報は影響を受ける可能性があり、ゆえに、当社の将来の業績、経営結果等と異なる結果をもたらす可能性があります。本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願い致します。

本資料に記載された情報に基づいて投資された結果、何らかの損害を被られましても、当社は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

著作権等について

本資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、いすゞ自動車株式会社または原権利者に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

(付表) 1兆円イノベーション投資を踏まえた研究開発費・設備投資の見通し

イノベーション投資の内訳は、研究開発費 5,000 億円、設備投資 2,000 億円、事業投資 3,000 億円を想定
 既存事業から徐々にリソースシフトしつつ、従来比高水準の投資を実行

